

Q6： 協働につなげていくための、熟議の具体的なプロセスを知りたい。

A： 熟議とは、多くの当事者が「熟慮」と「議論」によって問題の解決を目指す対話のことである。保護者や地域住民等、様々な立場の関係者が一つのテーブルにつき、活発な議論を重ねることで、新しいアイデアや考え方が生まれることになる。
熟議の場やテーマは以下のようなものが考えられる。

1 熟議の場とテーマの設定

熟議は、学校運営協議会、地域学校協働活動の計画や評価を行う会議、学校と地域の連携・協働を内容とした研修会等で実施することが想定される。

【テーマ例】

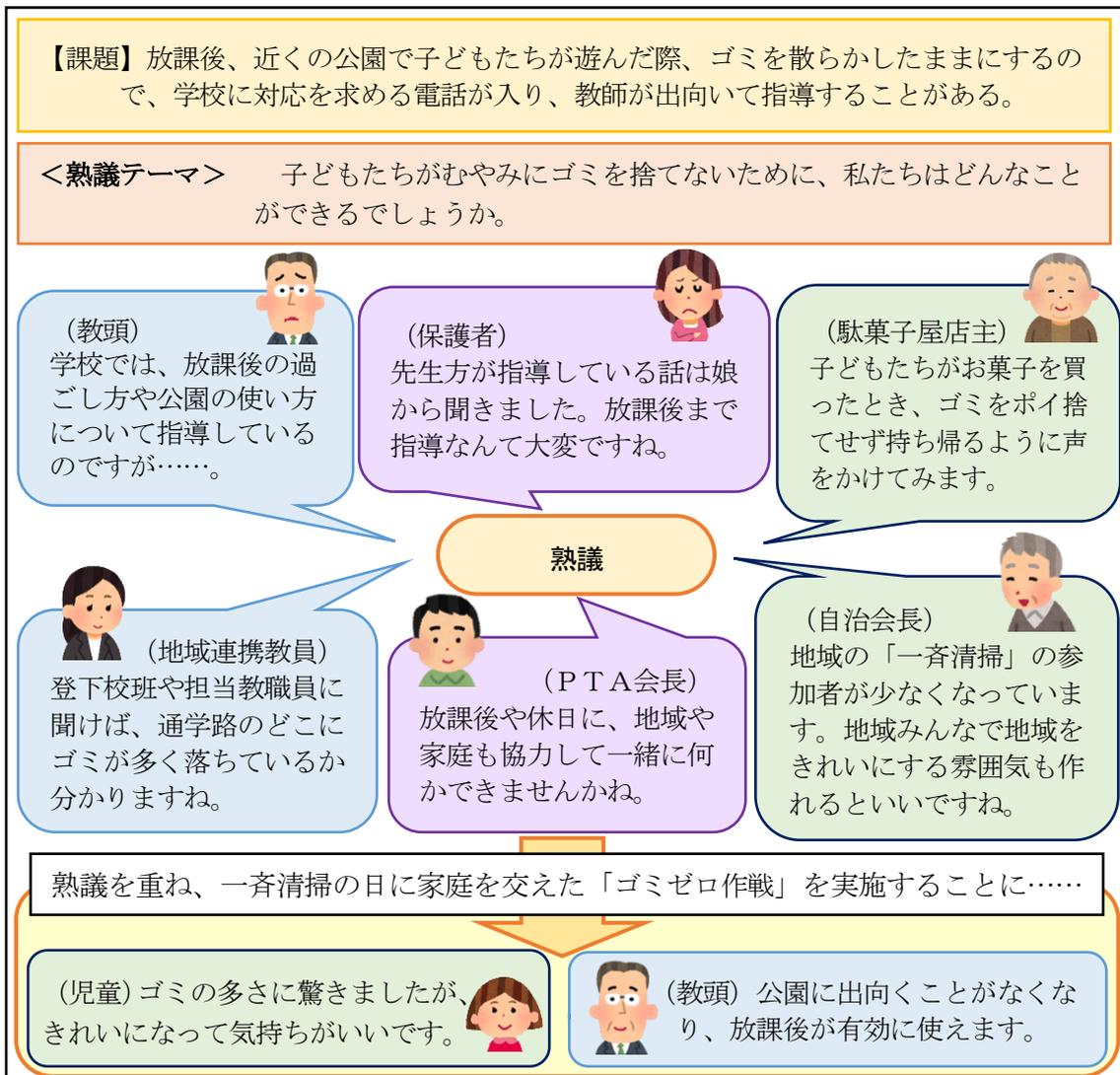
- 地域の子どもたちにどのように育ててほしいか
- 子どもたちに身に付けてほしい力とは
- 雑草が多い通学路の環境整備をどうすればよいか
- 地域の行事へ子どもたちが参加するには など



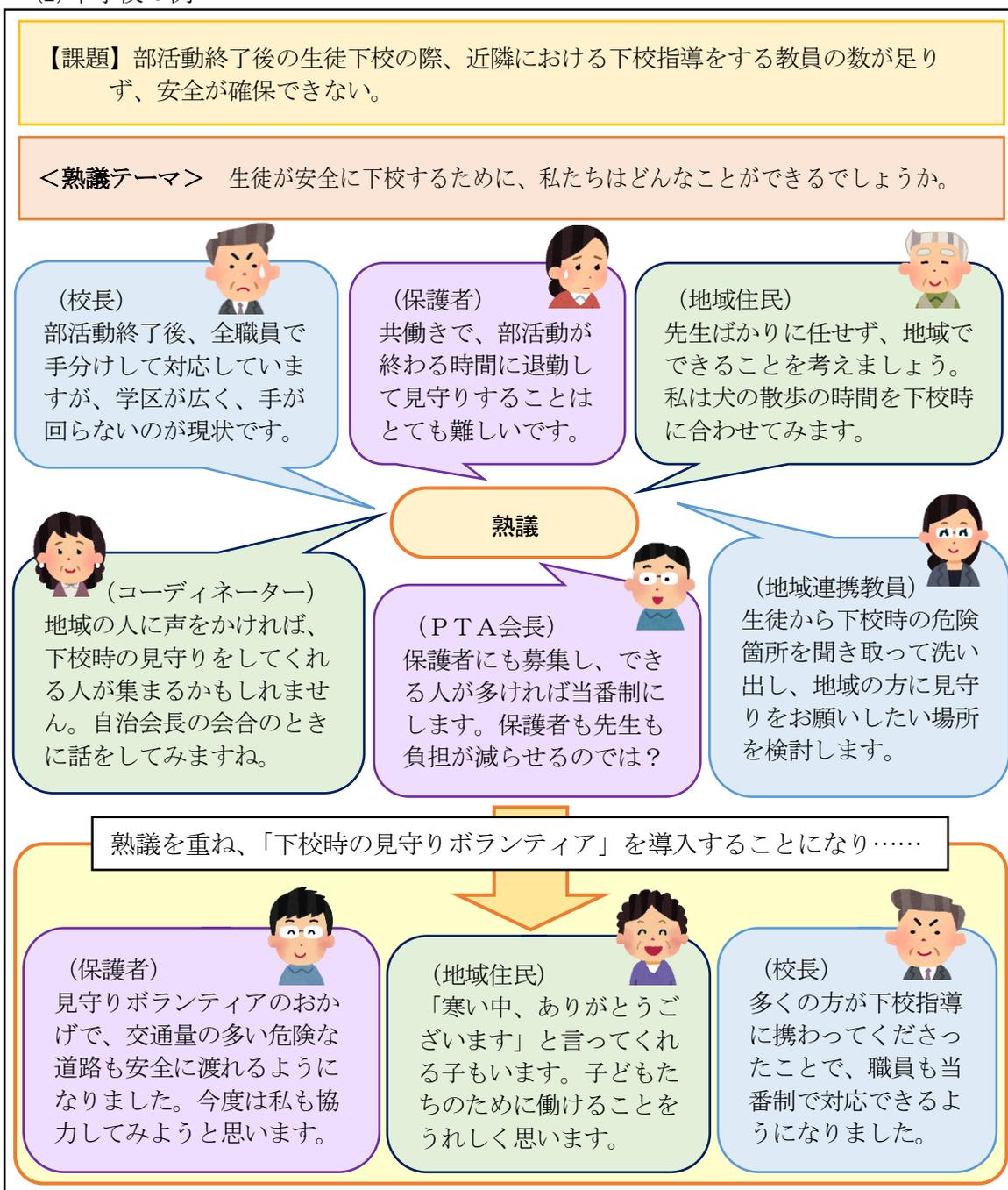
2 熟議の例

学校や地域の子どもはどのような課題を抱えているのかという実態を共有するとともに、地域でどのような子どもを育てたいのか、何を実現したいのかという目標・ビジョンを共有するために「熟議」を重ねることが大切である。

(1) 小学校の例



(2) 中学校の例



3 熟議を「協働」につなげていく

熟議を行うことで課題がすべて解決されるわけではない。熟議で提案されたプランを課題解決や目標達成に向けた具体的な取組（協働）につなげていくことが大切である。この協働を進めていく体制が「地域学校協働本部」であり、幅広い地域住民等の参画により学校や地域の課題解決に向けた取組が進められるとよい。

熟議したことが「協働」として具体的な活動に結びつけていく上でも、学校運営協議会と地域学校協働本部は、一体的に推進されていくことが望ましい。

※協働：複数の人が同じ目的のために対等の立場で協力してともに働くことで、一方的な支援や協力ということではない。

【参考資料】

- | | | |
|--|--------|-----|
| ・「学校と地域の連携・協働推進ハンドブック」 | R05.3 | 県教委 |
| ・「これからの学校と地域 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動」 | R02.2 | 文科省 |
| ・「コミュニティ・スクールのつくり方」 | R02.10 | 文科省 |
| ・「コミュニティ・スクール2018～地域とともにある学校づくりを目指して～」 | H30.9 | 文科省 |